

留学報告書 ～カナダで気づいたこと～

オカナガン大学
外国語学部（中期）

今回のカナダ留学を通して、私は自分の語学学習に対する考え方を見直すことができました。私にとって留学は、高校生からの目標だったので、公費留学が決まったときは本当に嬉しかったです。

留学前の春学期は、留学講座や留学準備に追われ、とても忙しかったです。しかし、留学へ行く準備が少しずつ整っていき、毎日がとても充実していました。留学が決まってからの6ヶ月間はあっという間にすぎ、出発の日がやって来ました。カナダへ留学するのは今回が二回目でした。大学1年の夏に、短期留学で1ヶ月だけカナダのバーノンへ留学していました。この短期留学を経験する前は、中期留学ではアメリカに行きたいと思っていました。しかし実際カナダで生活してみると、カナダの人の優しさや、住みやすさがとても気に入り、もう一度カナダに行きたいという気持ちが強くなりました。

今回は、バーノンの隣町であるケロウナのオカナガン大学に留学しました。留学生活中は、留学経験者の先輩方に教えていただいたことを肌で感じる毎日でした。見るもの体験することすべてが新鮮で、一日がとても早く感じました。

学校では、海外から見た日本について留学生の友達から聞くことがとても楽しかったです。今まで気付かなかった日本の良さを知ることができました。しかし同時に、自分が日本の文化や歴史についてみんなに伝えられるほどの知識を持っていないことを痛感しました。授業でもそれぞれの国の戦争時代について話す機会があったのですが、私は全く話すことができませんでした。海外や英語を勉強することも大切ですが、自分の国について知識を深めることも大切だと感じました。

また、留学中にはほかの国からの留学生との留学している目的の違いを強く感じました。日本人留学生の多くは英語を学ぶために海外へいきますが、他の留学生の人は、カナダに住むため、カナダで仕事を探すため、カナダの大学で勉強するために留学をしていると言っていました。私の友人はビジネスを学びたいと言っていました。私の英語学習上での目標は、あくまで英語上達でした。英語を学ぶ目的が根本的に違うことに衝撃を受けました。この経験もあって、英語以外にも何かに力を入れようと思うようになりました。

しかし一か月を過ぎたころから、カナダでの生活が当たり前になってきていることに気が付きました。気付いた瞬間、私は少し怖くなりました。海外での生活に慣れてきたという面ではいいのですが、自分の中で今カナダにいるということへの価値観も変わってきていると感じました。実際このとき、カナダでしかできないことをやろうという気持ちも薄

なくなっていました。この状況を変えるため、私は何か新しいこと、自分が留学先で頑張ったといえる何かを残そうと思いました。

そのうちの 하나가一人旅です。私は、現時点での自分の語学力を試すには、海外一人旅が一番効果的だと思っていました。旅行先にはトロントを選びました。しかし私は、これまでに一人で飛行機に乗ったことはなく、チェックインの方法も知りませんでした。

この旅行に行く前には、友達とケベックへ行きました。この旅行は私にとって初めての海外旅行でした。初めて見る街の光景や、様々な人との出会いから、もっといろいろな場所へ行きたいと思う気持ちがより一層強くなりました。自分にはまだ学ぶべきことがたくさんあると感じました。

このケベック旅行を通して飛行機の乗り方や宿の取り方を学び、11月にトロント一人旅へ出発しました。出発当日はロウナで初雪が降ったため、飛行機の遅れを心配したけれど、予定通りトロントへ出発することができました。トロントでは、カナダに留学している友人や先輩と会い、お互いの留學生活についてたくさん話しをしました。留学先で、一緒に留学を目指していた友達と会うことが留學内定前からの夢だったので、トロントで会うことができうれしかったです。

一人旅二日目にはナイアガラの滝へ行きました。自分でバスを予約したのですが、出発時間が早く、一人でバス停まで歩くのは少し怖かったです。それに加えて、バスに乗るときには、私がネットから印刷してきたチケットの印刷方法が間違っているということで、バスの運転手さんに怒られてしまいました。その後、私は自分のミスであったことを謝り、印刷し直してほしいことを伝えました。すると、その運転手の方は優しく教えてくれました。いつもだったら友達やホストファミリーに頼ってしまう場面を一人で乗り越えられたことは、私の自信になりました。その後は大きなトラブルもなく、無事ケロウナに帰ってくることができました。

この旅行のほかにも、ビクトリア、バンクーバーに行きました。最後に行ったバンクーバー旅行には、カナダで知り合った台湾人の友達と行きました。この友達の名前はVickyといい、留学先で一緒に行動していた友達の一人です。Vickyの親戚がバンクーバーに住んでいたため、この旅行中は家に泊めてくれました。

バンクーバーには日本人観光客を含むアジア系の人が多く、日本語のパンフレットや表示を多く見かけました。バンクーバーへはクリスマスに行ったので、たくさんの人でにぎわっていました。しかしクリスマス当日は、ほとんどのお店が閉まっていた。日本では多く人がクリスマスショッピングや外食を楽しむイメージだったのでとても驚きました。そのため、昼食を食べるお店を探すのも大変でした。しかし、韓国や中国、日本などのアジア系のお店は開いていたので、韓国料理を食べました。面白い文化の違いを知ることができてよかったです。

クリスマスの夜には、Vickyの友達がクリスマスパーティーに招待してくれました。タイ、メキシコ、インド、台湾、日本の留学生が集まっていて、新しい友達もできました。

この先また会うことがあるかは分からないけれど、カナダでのクリスマスを一緒に過ごすことができ、とてもいい思い出になりました。

旅行中は、お互い自分の国や友達、家族、これからやりたいことについてたくさん話をしました。話していると、お互い知らない単語や意味の分からない単語が出てきたのですが、たくさん話しているうちに何となくお互いの言いたいことが読み取れるようになっていました。それもあって、英語でも話がとても盛り上がりました。Vickyは日本に何度か来たことがあり、また日本を訪れたいと言っていました。いつか、日本で再会できる日が来るといいなと思います。

バンクーバー旅行の五日間は英語だけで会話していたのですが、留学期間の中で一番英語が伸びたと感じました。日本語を一切使えない環境が良かったのだと思います。今までできなかったRの発音も出来るようになっていました。たったの五日間だったけれど、意識することが大事だと再確認しました。帰国前に最高の旅行ができてよかったです。

留学する前や留学中は、後悔のない留学生活にしようと思っていたのですが、実際今は、後悔することも多いです。もっと英語上達のために努力できたのではないかと思います。しかし、それ以上に学んだことや、留学をしないと気付かなかったことにも気づくことができました。留学をしないと知ることの出来なかった文化にもたくさん出会うことが出来たと思います。

今回の留学は語学力の向上だけでなく、自分の考え方を見直すいい機会になりました。この留学生活を通して、自分のやりたいこと、そのためにやるべきことに気が付くことができました。今までははっきりとした目標や、英語を勉強する理由がなかったのですが、毎日英語と向き合うことで次第にわかってきました。また、留学前はこれから行くカナダばかり見ていて、日本に目を向ける機会はあまりなかったのですが、いざ留学してみると、日本に興味を持っている人にたくさん出会いました。日本について話をする機会も多かったです。私自身もカナダで生活してみて、改めて日本の良さに気が付きました。それもあって、今は日本の文化や伝統についてもっと知識を深めたいと思っています。留学という形で、一度日本を離れて分かることもあるのだと感じました。

留学生活は終わってしまったけど、留学を通して手に入れて考え方や意欲をもってこれからは英語を勉強していきたいです。